

取組の概要

対象畜種

豚

協議会構成員

(有) アーク、おくとま農産、とぎの森ファーム、アグリランド深萱、いわい東農業協同組合、一関市役所千厩支所、藤沢町、県南広域振興局一関総合支局農林部、千厩農林センター、一関農業改良普及センター

飼料用米生産面積

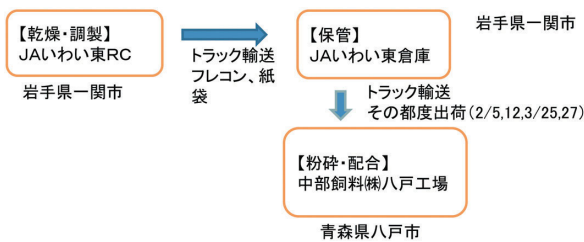
10.0ha

供試品種

ふくひびき 10.0ha

取組内容

① 飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査



- ◆ ライスセンターでフレコン、紙袋詰めにした飼料用米を運送会社に委託し、JA倉庫に運搬。
- ◆ JA倉庫から中部飼料(株)八戸工場までの輸送は飼料会社の手配した運送会社が運搬。
- ◆ 参考 飼料用米生産ほ場10haのわらを飼料用に収集し、畜産農家へ供給した。

② 飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査 (畜産物の成分分析を含む)

試験設計：配合飼料に15%配合。肥育豚に対して出荷前2ヶ月間給与。

調査項目：嗜好性…食い込みは良好

一般臨床所見…豚の体型に丸みが出てきて好ましい。

取組によってわかったこと

1. 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。

- 乾燥・調製、輸送とも問題なく、計画どおり実施できた。
- 倉庫では、フレコンを処理するフォークリフトが必要。
- 今回は3月までに全量出荷されたので問題はなかったが、気温が上昇する5月以降までの保管となれば、低温倉庫での保管が必要となり、コストアップとなる。
- 乾燥・調製料の負担が大きいため、ほ場で水分を下げる方法など、更なるコスト引き下げの方法を研究していく必要がある。

2. 家畜・畜産物への影響について、次のことがわかりました。

- 確保できた飼料用米の量が少なく、給与した期間が1ヶ月間と短く限られているので、肉質についての詳細なデータは抽出できなかった。
- 給与中の豚を目視している限りでは、飼料用米の嗜好性は高く、飼料原料としては問題ないと考えられる。

3. 今後の飼料用米の取組予定などについて

- 平成21年度は飼料用米の作付面積を15.6haに拡大し、取組を継続する。

JAIいわい東米穀課 佐藤 尚志

参考データ・写真等



左上：JAライスセンター
右上：JAライスセンター
(乾燥機等)
左下：JA倉庫